

# 【連載・県立高校の今】 第5回

## 松戸国際高校（グローバルスクール）、袖ヶ浦高校（先進ITコース） 茂原樟陽高校（農業経営者育成に関するコース）、小見川高校（医療コース）

県教育庁企画管理部教育政策課高校改革推進室

### 1 はじめに

本年度は「連載・県立高校の今」として「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム」に基づき、令和6年度より新たな学びが加わる学校の取組を紹介している。

今回は、(1)グローバルスクール、(2)先進ITコース、(3)農業経営者育成に関するコース、(4)医療コースの4つの再編項目について、それぞれの概要と、各校の取組を紹介する。

#### (1)グローバルスクールについて

社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成するにあたり、語学力とともに、グローバルな視点を持ち、幅広い教養や問題解決力等の国際的素養を身に付けることが求められている。

本県ではこれまで、平成27年度に成田国際高校を「グローバルスクール」に指定し、グローバル人材育成のための研究開発を行い、成果を上げてきた。令和6年度には松戸国際高校を新たに指定する。

#### (2)先進ITコースについて

情報科は、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標としている。

今後の見通しとして、我が国の労働人口及び若年層人口は全体としては減少するものの、IT関連市場規模の拡大によるIT人材の需要は、先端IT人材（IoT及びAIを活用したIT

サービス市場に従事する人材）を中心として増加が見込まれている。令和6年度には袖ヶ浦高校の情報コミュニケーション科に先進ITコースを設置する。

#### (3)農業経営者育成に関するコースについて

本県では高校新卒者を含む新規就農者を年間450人確保することを目標としており、「千葉県農林水産業振興計画」計画期間：令和4年度～7年度）今後も更なる担い手の育成が求められる。

さらに、近年の農業構造の変化に伴い農業経営技術は高度化しており、こうした時代の変化に柔軟に対応し、新たな農業の在り方を切り拓くことができる農業経営者の育成が求められている。令和6年度には茂原樟陽高校の農業に関する学科に農業経営者育成に関するコースとして「アグリマネジメントコース」を設置する。

#### (4)医療コースについて

本県の医師不足の実態を踏まえ、地元医療機関等との連携による医療体験等を通して地域医療に対する理解と関心を高め、医療従事者になる意欲を醸成し、将来の地域医療を担う人材の育成を図ることを目的に、普通科に医療系コースを設置してきた。令和6年度には小見川高校に医療コースを設置する。

設置校	設置年度	設置コース
東葛飾	平成26年度	医歯薬コース
長狭	平成26年度	医療・福祉コース
成田北	令和2年度	医療コース

これまでの医療系コース設置校一覧

## 2 松戸国際高等学校の取組

本校は昨年、創立50周年、校名を松戸国際高校と改称してから30周年を迎えた。令和6年度からは「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム」により、「グローバルスクール」に指定される。

### (1)社会力豊かなグローバル人材の育成

世界を舞台に持続的発展に貢献できるグローバルリーダーを育成するため、様々な教育活動を実践している。

- ①海外姉妹校交流プログラムの実施
- ②留学生・海外学校訪問団の受入れ
- ③海外修学旅行の実施
- ④国際理解講演会の実施
- ⑤ユネスコスクールへの登録
- ⑥ESD教育・SDGs教育への取組
- ⑦オールイングリッシュによる授業
- ⑧第2外国語（中国・韓国・仏蘭西）の履修
- ⑨異文化理解を推進する学校設定教科・科目
- ⑩スピーチコンテスト・ディベート大会への積極的な参加

本校は「普通科」「国際教養科」を合わせて「国際高校」なのであり、上記の取組に学科による区別は無い。生徒は学校に居ながらにして、「多様性」「国際性」を肌で感じている。

### (2)外国籍・海外帰国生徒への支援

#### ①グローバルクラスルームの設置

本校には外国籍生徒が40名、海外帰国生徒が20名在籍している。今年度から外国籍生徒、海外帰国生徒の支援を強化するために、生徒棟の4階に「グローバルクラスルーム」を設置した。「外国人支援コーディネーター」（教員）を常駐させ、月に2回程度来校する「外国人相談員」（中国語・韓国語・ポルトガル語・日本語）と連携を図りながら、支援に当たっている。放課後は外国籍生徒の日本語指導の場だけでなく、外国籍生徒の居場所と交流の

場として賑わっている。

#### ②充実した日本語指導を目指して

本校では外国籍生徒に対する日本語指導として、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」以外にも、各自の習熟度に合わせて「取り出し授業」（1年次・約20単位分、2年次・4単位分）を実施している。卒業後に日本の大学進学を希望する生徒も多く、そのためには日本語能力試験のN2に合格するレベルの日本語の習得が必須である。

令和6年度から日本語の能力に応じた指導をより充実させるために県教育委員会に「特別教育課程」（2年次・2単位、3年次・4単位）を申請し、外国籍生徒・海外帰国生徒の日本語指導を支援する体制を整えた。



グローバルスクール紹介ポスター

## 3 袖ヶ浦高等学校の取組

本校は、昭和51年に開校し今年で48年目を迎える、文武両道に活気あふれた学校である。

平成23年4月に設置された情報コミュニケーション科は、千葉県内に2校しか設置されていない情報の専門学科であり、日本の公立高校では初めて1人1台タブレットを導入した。動画作成やWebデザイン、プレゼンテーションの授業などで活用し、「コミュニ

ケーション能力」や「情報活用能力」を高める教育活動を実践している。

今回の「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム」では令和6年度入学生からこの情報コミュニケーション科に「先進ITコース」を設置する。1クラス定員40名を対象にコース分けを行うので、コースの定員は20名を想定している。

### (1)コースの目標

先進ITコースの目標を以下のように設定した。「数理・データサイエンス・AIリテラシーを有する技術者の育成をキーワードに、先進IT技術者を目指すために必要なプログラミングや統計処理スキルを育むとともに、情報・数学・理科・英語の教科学習を充実させ、IT技術を扱ううえでの基礎的・基本的内容を教科横断的に学習する。」

先進ITコースでは、大学や専門学校、研究所や一般企業などと連携を取り合いながら、先進IT技術者を目指すために必要なプログラミングやデータ分析を学んでいくほか、AIの仕組みや活用方法を科学的に学び、自身が興味のある分野のコンテンツの作成などにも取り組む予定である。

### (2)コース設置に向けた取組

コース設置に伴い、「船橋情報ビジネス専門学校」や「茨城県立IT未来高等学校」、「かずさDNA研究所」などの視察を行い、どのような「学び」や「設備」が必要なのか、検討を進めてきた。

また今年度より千葉県教育委員会が提携した特定非営利活動法人「みんなのコード」の永野直氏をお招きし、職員を対象とした先進情報技術研修を行った。研修内で実際に生成AIを使用することで、AIを活用する能力を育む教育の在り方について考えることができた。

今後は外部機関の連携先を決定し、カリキュラムや指導計画を検討していく予定である。



先進情報技術研修の様子

## 4 茂原樟陽高等学校の取組

本校は、平成18年4月に茂原農業高等学校及び茂原工業高等学校が統合し、平成27年度から千葉県の農業教育拠点校に指定され、令和5年度で18年目を迎えた専門高等学校である。

大学科農業においては、農業科、食品科学科、土木造園科の3学科、大学科工業においては、電子機械科、電気科、環境化学科の3学科を設置しており、専門教科の学びによって地域に根差した教育活動を展開している。

### (1)コースの設置

令和4年3月に策定された「県立高校改革推進プラン・第1次プログラム」により、令和6年度から農業に関する学科において、農業経営者育成に関するコースとして「アグリマネジメントコース」をスタートすることとなり、将来の農業及び関連産業の経営を担う農業経営感覚を有した生徒を育成するための学習プログラムを設けた。

### (2)コースの特徴

主な特徴として、次の3点を挙げる。

- ①将来の新規就農や、農業関連産業の起業及び経営者を目指す意欲を醸成する。
- ②農業に関係する職種の経営に必要な基礎的な知識や、農業用ドローン等を活用したスマート農業などの先端的な技術を学ぶ。
- ③大学・大学校、行政機関、民間企業、農業関係団体と連携した学習を行うことで、就農に限らず、大学・農業大学校への進学、就職もサポートする。

以上のような特徴を踏まえ、体験的な学習を取り入れ、農業経営のセンスを養うための学習内容とした。また、農業科、食品科学科、土木造園科のどの学科に在籍していても、学科を横断した学びを行うカリキュラムとなっている。

本校は、今後も、ものづくりの心を学び、キャリアを生かした人材育成に引き続き取り組んでいく。



農業用ドローンを活用した学習



販売実習による流通の学び

## 5 小見川高等学校の取組

### ～地域医療機関・大学との連携による体験重視の医療コース設置に向けて～

本校は香取市小見川地区にあり、桜の名所である城山に隣接している創立101年目の普通高校である。すでに千葉県介護職員初任者研修修了資格が取得できる福祉コースが平成27年4月1日に普通科に設置されており、卒業生は地域の福祉施設に就職するなど、地域福祉の充実に寄与している。

#### (1) コースの設置

令和6年度より「県立高校改革推進プラン・第1次プログラム」に基づき医療コースを設置する。これにより、福祉コースと医療コー

スが併設されることになる。昨年度よりコースの設置に向けて準備を始めている。

医療コースは、医療の専門職として資格を取得し、地元香取市及び周辺の地域医療に貢献できる人材育成を最大の目的としている。

#### (2) コースの内容

本校は、従来、1学年の「総合的な探究の時間」において、福祉について学習を進めてきたが、令和6年度より医療と福祉を理解するためのカリキュラムを実施する予定とした。

医療コース選択が行われる2学年からは、地域医療機関での多数の医療現場実習を通して、自分の望む医療職種を決めていくことになる。卒業後、国家資格を取得するためにふさわしい大学・専門学校に進学できるだけの学力をつけるため、これまでのカリキュラム編成を根本から見直した。

医療コースの学校設定科目として、「医療探究Ⅰ」（2学年）と「医療探究Ⅱ」（3学年）を設ける。

「医療探究Ⅰ」では、病院での現場実習や大学等の講師の講義を中心に展開し、実習や講義を通して豊かな人間性と高い倫理観を育むことを目標とした。

「医療探究Ⅱ」では、医療に関する現代的な課題について、自分で調べ、考察し、発表する授業実践を通して、自分の考えを自分の言葉で発信することができる生徒の育成を目指す。



おみがわ医療センターでの学習会の様子